

# 第54回全日本大学男子選手権大会

令和元年9月6日（金）～8日（日） 富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

## 日本体育大（東京） 貫録の3連覇！



日ソ協記録副委員長 芦澤 忠

標記大会は、日本ソフトボール協会・富山県ソフトボール協会創立70周年記念、また「拠点事業」として富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場で「5年間」開催されることとなった。

開会式は前年度優勝・日本体育大、準優勝・早稲田大をはじめ、全国の予選を勝ち抜いた合計32チームが集い、福井大・鈴木将矢主将の選手宣誓によって一気に盛り上がりを見せた。

また、開会式終了後は大学生で唯一「男子TOP日本代表」に選出され、「世界男子選手権準優勝」に貢献した日本体育大・小山玲央投手に全日本大学ソフトボール連盟・中野元会長より表彰状が授与された。さらに本大会終了後、インドネシア・マカッサルで実施される「男子U23 第1次海外強化合宿」に臨む全日本大学男子選抜チームが紹介され、選手・スタッフにエールが送られた。

大会は最終日まで「猛暑」が続いたが、チーム・関係者・観客が一体となって会場を盛り上げ、熱戦を展開。富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場の2球場に「スタンド席」が設けられ、その2球場の1回戦から決勝戦まで「全17試合」が動画で「LIVE配信」される等、開催県・富山が様々な形で大会のPRに努めていた。

準決勝には昨年の覇者・日本体育大、準優勝の早稲田大が順当に勝ち上がり、虎視眈々と王座を狙う福岡大、環太平洋大も名乗りを上げた。

なお特筆すべき記録として、大阪大・畠尚吾選手、日本体育大・上田郁也選手、早稲田大・澤優輝選手が今大会「満塁本塁打」を記録した。

### 〈進決勝〉

日本体育大  
2001000  
0000000  
0

環太平洋大

(日) ○豊本・岡部・上田

(環) ●萩原・井上・宮平

▽三濱田 (日) 三上田 (日)

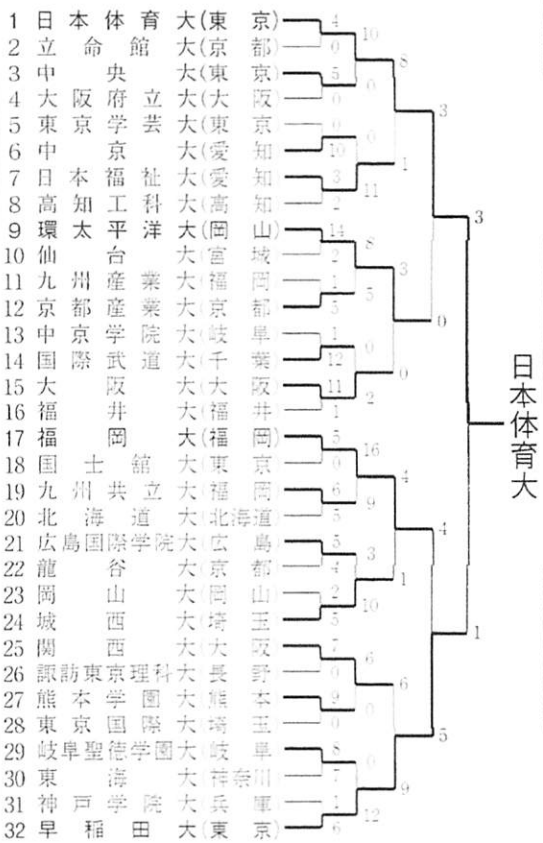
(審) P 笹野 1 濱田 2 清水 3 笹伊

(記) 林

先攻の日体大は初回、環太平洋大の先発・萩原の制球の乱れに乗じて一死一・三塁とすると、4番・上田が右中間を切り裂くタイムリーツーベースを放ち、2点を先制。流れをつかんだ日体大は2点リードのまま迎えた4回表にも、7番・京谷、8番・濱田の長短打で3点目を加え、優位に試合を進めた。

守っては、この準決勝でもエース・小山を温存。豊本、岡部とつなぐ余裕

### 第54回全日本大学男子選手権大会



後攻の早稲田大は初回、1番・吉原のバントヒットを足場に打線がつなが

(早) 山内・松下・○山内・澤▽本澤、川上(早) 〔織部(早) (審) P原井 1 利田 2 萩原 3 水井 (記) 山本

福岡大  
0000220  
3001001x  
5 4

の投手リレーで環太平洋大打線を散発 4安打に抑え、完封勝利を飾り、「3連覇」に「王手」をかけた。

〔準決勝〕

り、いきなり打者9人を送る猛攻。一挙3点を先制すると、4回裏にも8番・澤が中越ソロホームランを叩き込み、4点目を追加。試合の主導権を握ったかに見えた。

しかし、福岡大は直後の5回表に4番・実松のタイムリー、押し出しで2点を返し、反撃開始。続く6回表にも2番・山下のタイムリー等で2点を奪い、試合を振り出しに戻した。

このまま延長タイブレーカーも予想されたが、早稲田大は7回裏、この回先頭の3番・川上がワンポール・ワンストライクからの3球目を見事に振り抜き、右中間へサヨナラソロホームラン! 「一振り」で接戦に幕をおろし、2年連続の決勝進出を決めた。

0000001  
000210x  
3 1

最後は豪快なサヨナラホームランで決着!



### 《決勝》

#### 早稲田大

0000001  
000210x  
3 1

(早) ●山内・松下・澤  
(日) ○小山・上田  
▽丞倉見 (日)

(審) P丸田 1 柚木 2 松井 3 中村  
(記) 林

前回と同じ対戦カードになった決勝は、日体大・小山、早稲田大・山内「両エース」の先発でスタート。序盤は互いに走者を背負いながらも、得点を許すことなく、投手戦の様相を呈した。



日体大・倉見が値千金の先制ツーラン!!

迎えた4回裏、日体大はヒット、送りバント、内野ゴロで一死三塁とする。2番・倉見がワンボールから甘く入った球を強振!これがセンターオパーのツーランホームランとなり、待望の先取点を挙げた。試合の主導権を握った日体大は続く5回裏にもヒット、ワイルドピッチ、エラーで一死三塁とし、7番・京谷の三遊間を破るタイムリーで大きな3点目を追加。勝利をグッと引き寄せた。

投げては、満を持して先発登板した小山が7回表に自らのワイルドピッチで1点を失いはしたものの、終始「貫録」のピッチングを披露。球速130km/hに迫る「世界トップレベル」のライズ・ドロップを駆使して10三振を奪い、完封勝利を収め、堂々の「3連覇」を成し遂げた。